

コロナで失われた高齢者の共食を復活！ 事業実施主体：公立大学法人宮城大学(宮城県)

○ コロナ禍で喪失した地域の「共食の場」を新たな時代に適合したものとして復活し、多様な機関の連携共同による次世代へ伝えつなげる食育の推進の場を構築する。

○ 地域のつながりの原点である身近な共食の再構築、地域が連携した高齢者の健全な食生活を支える体制づくりのため、身近な共食の場である「お茶っこ飲み」活動を再開し、宮城大学を起点に、町内会、社会福祉協議会、地域包括センター、福祉事業所など、地域の多様なステークホルダーが連携したイベントを実施。実施に際して、農作業体験、新たな食材や情報提供方法の提案など「新たな日常」を実現する複数の取組を組み合わせた。

宮城県



仙台市

【取組の内容】

○ 本大学附属農場での稲刈り体験

本大学附属農場で高齢者の稲刈り体験会を開催。昔の作業経験など、体験に参加する中で共通の話題作りを実施。



(稲刈り体験の様子)

○ 多機関連携による共食の場

本大学を起点に町内会、社会福祉協議会、地域包括センターなどがそれぞれの強みを発揮する新たな取組として「お茶っこ飲み」を実施。



(お茶っこ飲み)

○ 農業体験と共食の連動

農業体験と共食の場をつなぎ、共食の効果を更にアップさせるために稲刈り体験での収穫物(米粉)を使用したスイーツを提供。



(米粉スイーツ) (収穫したコメを原材料に利用)



【取組の成果】

○ 地域に立地する大学が起点となり、高齢者対策に取り組む関係する地域の多様な関係機関が連携、フレイル予防※の話題提供など、それぞれの強みを発揮する機会となった。

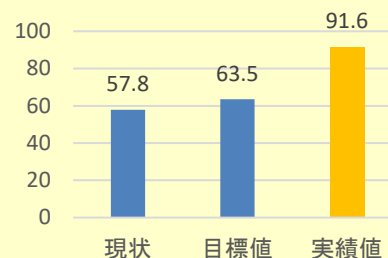
※地域包括支援センターの担当者からフレイル予防の説明やイベントを紹介。

○ 共食の場では、地域でのコロナ禍前からの取組の紹介も行われ、地域活動の再活性化が期待される。

○ 事後アンケートでも「共食をしたい」、「産地等を意識して選ぶ」割合が極めて高く、取組効果が感じられた。

【事業の目標】

地域等で共食したいと思う人が共食する割合



産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ者の割合

